



2022年5月26日放送

日薬アワー 日本薬剤師会研修プラットフォームについて

日本薬剤師会
常務理事 渡邊 大記

現在、日本薬剤師会で構築を進めております研修プラットフォームについてご紹介したいと思います。

この研修プラットフォームは全国規模での活用を目的としたものですので、そのご案内については、各都道府県薬剤師会に向けて、5月中には発出する予定で動いております。その事業概要をご紹介したいと思います。

研修プラットフォーム構築の背景

先ず始めに、この研修プラットフォームを構築するに至った背景について触れておきたいと思います。

日本薬剤師会を含め、全国の都道府県薬剤師会では薬剤師の資質向上、医療安全の向上等、生涯教育に供するために、多くの研修会を開催してきました。これらの研修会は、そのほとんどが集合参加型の形態になっていました。しかし2019年の年末に新型コロナウイルス感染症が発生したことにより、その感染拡大防止の観点から、これまでの集合参加型の研修から、WEBやe-learningでの研修に重点をおいて実施せざるを得ない状況となりました。

また一方で、このような研修形態の変化は、コロナ対策のみならず、研修会場が遠いなどの理由で参加がしにくかった薬剤師にも参加しやすい研修会へと変容したのも事実です。そのため、コロナ禍が収束した後でも、WEB研修やe-learning研修を継続していくための基盤整備が必要であると考えました。また併せて各都道府県薬剤師会での研修会の実施に係る事務作業の軽減もあります。研修会の実施にあたっては、企画から、受講の申込み、管理に至るまで、手作業で行っているところが多く、それらに係る事務作業が一定の負担になっているということもありました。そして他の医療関係団体においても、こうした課題に対応したWEBによる研修システムをすでに保有されていたということもあります。日本薬

剤師会においても、このような研修システムを構築するため、令和 3 年度の厚生労働省の補正予算である「薬剤師の資質向上に向けた研修に係る調査・検討事業」の事業費も活用して、この研修プラットフォームを構築するに至ったのです。

研修プラットフォームの目的・メリット

それでは今回、構築した研修プラットフォームの目的やメリットはどのようなものなのかをご紹介します。まいりたいと思います。

このシステムは、都道府県薬剤師会で活用いただくことにより、各都道府県薬剤師会が行っているさまざまな研修形態の管理・運営を一体的に行うことができるようになります。これにより、都道府県薬剤師会の研修開催に係る事務負担を軽減することができると同時に、受講する薬剤師にとっても、自身の受講する研修のポータルサイトとしても活用することが可能となります。

もう少し具体的にご紹介していきたいと思います。このプラットフォームは、ITRA 社の“manable”というシステムを活用したものになります。

まずプラットフォームにおいて、各都道府県薬剤師会に研修実施者としての権限を付与することになります。これによりこのプラットフォーム上で各都道府県薬剤師会はライブ配信等の WEB 研修やオンデマンド配信する研修形態だけでなく、従来からの集合型の研修を作成することも可能です。作成した研修会については、受講者の受付から、受講料が発生する研修会の場合は、その振込状況も含めて受講記録の管理が可能となります。そして受講終了後にはアンケートや試験を実施し、受講修了証を交付することが出来ます。また研修会の構成を考える上でも、日本薬剤師会がプラットフォーム上に提供するコンテンツを使用した研修会の開催も可能になります。またそれぞれの都道府県薬剤師会が作成したコンテンツをプラットフォーム上にアップロードし、それらを活用した研修を作成することが出来ます。またこれらのコンテンツを組み合わせることで研修会を実施することも可能です。

この研修実施者としての利用については、将来的に都道府県薬剤師会だけにとどまらず、地域薬剤師会でも利用できるように開発を予定しています。

また一方で、受講者にとっても、研修のポータルサイトとして活用することが可能となる点についてです。各受講者がプラットフォーム上に利用者登録をした時点で、各利用者のマイページが作成されます。このマイページに各自が受講した記録が積み重ねられていきますので、過去に受講した研修やこれから受講予定の研修を管理していただくことが出来ます。

利用方法・費用等

このシステムの利用についてですが、まずはこのプラットフォームを実際に使用・体験していただくため、試行運用から開始することとしております。そのご案内については、冒頭

でも述べましたように、5月中に各都道府県薬剤師会へ発出したいと考えております。そのご案内に基づき、利用申込書を日本薬剤師会にご提出いただきます。この研修プラットフォームの説明については、去る3月10日に各都道府県薬剤師会の研修担当役員や事務局担当者を対象に説明会を実施致しましたが、利用申込書をご提出いただいた後にも、再度、説明会の実施を予定しております。そして運用を開始した後は、当該システム運用会社のサポートサイトを利用できるようにしたいと考えております。現在、このサポート期間は開始から1か月間を予定しております。ただしこの試行運用期間中は、並行して機能開発を行っていくため、一部の機能については、まだ利用に制限があることはご了承くださいと思います。開発中の機能を含めた本格運用については、2022年度内を予定しております。

さてこの研修プラットフォーム利用に係る費用についてですが、試行運用期間中は、都道府県薬剤師会におけるシステム利用料は発生しないようにしております。但し一部、費用の発生する機能もあります。それは受講料が発生する研修会を実施する場合です。これには別途、決済機能が必要となるため、各都道府県薬剤師会が個別にGMOとの契約をしていただく必要が生じます。これはGMOとの個別契約のため、その初期費用が15万円となり、月額利用料は、基本料5,000円と手数料が一律に3.5%となっております。もちろん非会員にのみ費用負担が発生する場合や、既に都道府県薬剤師会独自で徴収する仕組みを持たれている場合は、その部分を本システム外で取り扱うことにより、新たに決済機能のための契約をする必要はありません。

本格稼働後については、今後のシステムの維持管理や、より使いやすいシステムへと改修していく費用等が発生していくことも踏まえ、一定の月間利用料としてのご負担をしていただくことも検討する必要があると考えています。

日本薬剤師会提供動画コンテンツ

最後に本研修プラットフォームにおいて、試行運用を開始する時点で日本薬剤師会から提供致します動画コンテンツについてご紹介しておきたいと思っております。

これらのコンテンツは、医療におけるICTの進展において、薬局での業務に関する研修内容です。これらは一度、本年、2022年の1月22日にプレ講演として実施したICT研修を、ご視聴いただいた先生方からのご意見や、その後の協議の進行状況を反映してコンテンツ化したものです。

まず、【総論1】として「薬剤師を取り巻く今後のICT化について」、【総論2】として、「医療情報システムの安全管理について」、この総論2は、現状、制度に関する知識と、薬局での対応についての2部構成からなるコンテンツです。そして各論においては、【各論1】として「オンライン服薬指導について」、これも業務としての取り扱いと、実施するにあたってのセキュリティに関する2部構成、【各論2】は「オンライン資格確認について」、そして【各論3】の「電子処方箋について」も、前半ではその仕組みについて、後半は実際、

薬局ではどのような業務となるのか、実務的な側面からご紹介した 2 部構成となります。【各論 4】では「電子版お薬手帳について」、そして最後に【各論 5】として、「医療 ICT 化に対応していく薬局業務」を解説したコンテンツを用意しております。

以上が、日本薬剤師会の提供する研修プラットフォームの概要になります。本プラットフォームの活用により、受講する全国の薬剤師の生涯教育に資すること、また企画、実施される都道府県薬剤師会にとって活用しやすいものとなれば幸いです。